

(1)学力調査結果から見られた傾向

	成果と課題(○:成果, ●:課題)	対 策(・)
国語	○文章を書くことに苦手意識を持つ児童もいるが、文章を正しく読み取り、条件に合わせた回答ができる児童も多い。 ●記述する問題の回答率が低い。(5名無回答) ●文章の構成を読み取ることはできるが、自分の考えを書くことに苦手意識を持っている。 ●既習の漢字の正答率が低い。 ●後半の問題の無回答率や誤答が多い。	・前学年までの既習漢字の復習を行う。 ・限られた時間で回答できるよう、順番通りに解く必要がないことを日頃から伝え、試行錯誤や時間配分の意識を育てる。
算数	○事前に過去の問題にあたることで、児童が問題に慣れ、文章を読むポイント(何を聞かれているか、意味を読み取る)をおさえて問題に臨むことができた。 ●記述式 ●説明する力、書く力 ●応用力、活用力(自分の力で答えようとする力、思考する力) ●図形(公式の忘れ)	・文章問題(問題の意味理解) ・なぜその式になるのかを考える ・授業で説明する場の設定
理科	○実際に実験・体験をして学習をした内容については、理解が深まっている。 ●資料や条件をつなげて考える、参照する力が弱い。 ●多岐にわたる情報を、実験における科学的な条件を整理して、別々にしたり、細かく分けたりして考える力が弱いと考えられる。 ●聞かれている問題に対して、より具体的な条件で解答する力が弱いと考えられる。	・できる範囲で良いので、具体的な実験や体験をしながら学習をする。 ・質問に対して、単語ではなく、より具体的に息の長い解答をする。

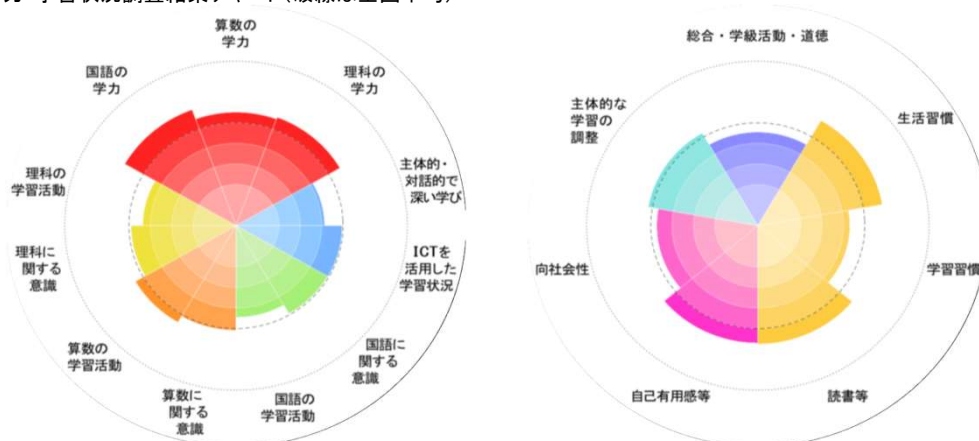
(2)質問紙調査から見られた傾向

	成果と課題(○:成果, ●:課題)	対 策(・)
質問紙	○朝食は毎日食べ、生活リズムが安定している。 ○学級生活をよくするために話し合い、解決する方法を決めている。 ●家庭学習の時間が1時間未満の人が、半分以上(65%)。 ●休みの日の学習時間が、1時間未満の人が70%。 ●自然体験や様々な体験活動の経験が少ない。 ●学校や地域のために何かしたいと思う児童の割合が少ない。 ●タブレットを活用する様々なことが苦手。	・家庭学習の時間を増やす取組の検討。 ・タブレットを活用する機会を増やす。 ・学校や地域に目を向ける活動を取り入れる。

(3)その他、今後特に力を入れて取り組むこと

学校全体	・各学年における家庭時間のめやすについて、年度初めだけではなく、定期的に確認していく。 ・どの学習時間においても、言葉で説明をもとめる機会を設ける。(短い単語ではなく、文章で)
------	---

(4)学力・学習状況調査結果チャート(破線は全国平均)



【受検者数】

20 名

※欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は、最少の受検者数をもって表示。

(5)質問紙調査の結果より(学力との相関が指摘されているものや、教育委員会として注目しているものを挙げています。)

